

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学統計・解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（8月16日-22日）の新規陽性者数は、4,524人（先々週 4,138人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における週あたりの実効再生産数(R)は 1.08 (95%CrI:1.05, 1.12)であり、報告に基づく限りは流行は横ばいとなりつつあります（図1）。

ただし、陽性者数の増大とともに保健所による調査が十分に行えなくなっており、接触者に対する検査が滞っている可能性があります。実際、新規陽性者のうち無症候者（診断時）が占める割合は、先週は 12.6%（先々週 12.8%）と低いまま推移しています。また、有症状者においても、検査へのアクセスが低下したり、報告の遅れが生じたりしており、新規陽性者数および実効再生産数が流行の実態を反映できていない可能性があります。

あり、30代 752人（17%）が続きます。性比で男性に多いことも含めて、これまでと傾向は変わりません。70代以上の高齢者が占める割合は4%と低く、一方で未成年が26%を占めています（図2）。

ただし、各年代別について新規陽性者数の前週比をみると、20代 1.04、30代 1.01 など壮年層での増加は頭打ちとなり、10代 1.24、80代 1.29 など小児と高齢者で感染が拡がり始めている可能性があります（図3）。

図2 沖縄県における性年齢階級別症例数（8月16日～22日）

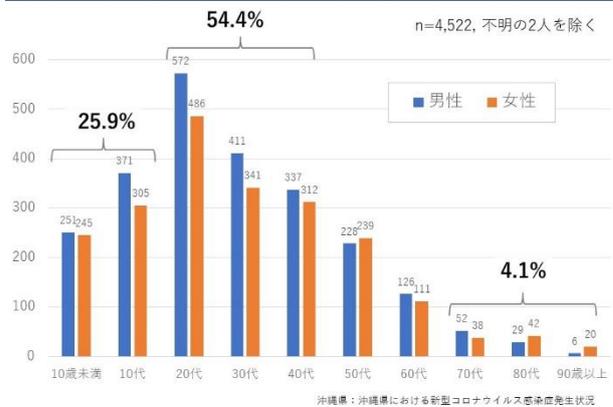


図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

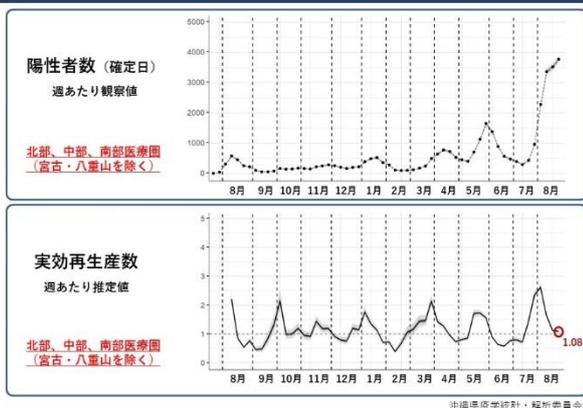


図3 沖縄県における年齢階級別前週比



年代別推移

年代別では、20代が 1,058人（23%）と最多で

幼年・若年層

園児、生徒、学生の感染者割合が、全体の新規陽性者数のうち18%（先々週16%）を占めています。内訳は、保育園・幼稚園児94人（先々週58人）、小学生309人（先々週234人）、中学生180人（先々週144人）、高校生102人（先々週89人）、大学生34人（先々週53人）、専門学校生45人（先々週30人）でした。とりわけ、中学生以下の小児の増加が顕著です。

保健所による疫学調査によると、小学生の新規陽性者の推定感染経路は、家庭134人（43%）、学童クラブ17人（6%）、親族13人（4%）、学習塾5（2%）、その他8人（3%）、不明・調査中132人（43%）でした。同様に、中学生では、家庭69人（38%）、塾17人（9%）、親族4人（2%）、その他10人（5%）、不明・調査中80人（44%）でした。

職業別推移

18歳以上の新規陽性者3557人のうち、疫学調査で職業等が明らかになったのは1930人（54%）でした。職業別で最多だったのは建設業従事者245人（先々週188人）でした。次いで、飲食店従業員169人（先々週175人）、小売店従業員115人（先々週99人）、保育従事者51人（先々週45人）、医療従事者48人（先々週52人）、コールセンター従業員45人（先々週32人）、介護従事者41人（先々週45人）、製造業従事者41人（先々週52人）、観光業従事者36人（先々週52人）と続いています。

保健所管轄区域別推移

医療圏別（7日間合計）では、北部198人（先々週175人）、中部1,731人（先々週1,656人）、那覇市1,148人（先々週988人）、南部1,062人（先々週883人）、宮古214人（先々週203人）、八重山111人（先々週182人）でした（図4）。

那覇市の実効再生産数(R)は1.11（95%CrI:1.05、

1.18）、宮古医療圏は0.99（95%CrI:0.85, 1.15）、八重山医療圏は0.56（95%CrI:0.45, 0.69）でした。また、新規陽性者のうち、診断時に無症候だった者が占める割合は、北部20%（先々週3%）、中部8%（先々週3%）、那覇市20%（先々週15%）、南部10%（先々週22%）、宮古16%（先々週35%）、八重山7%（先々週11%）でした。

図4 医療圏別にみる新規陽性者数の推移



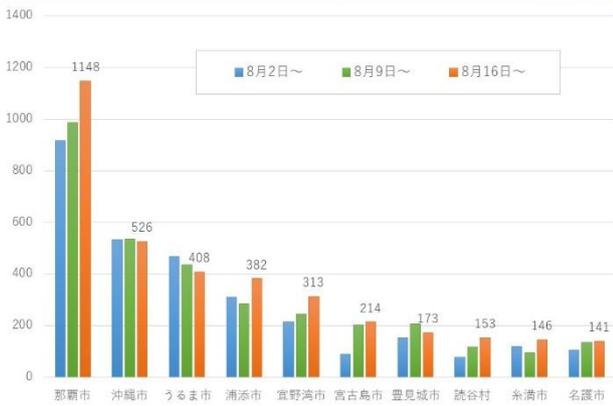
市町村別推移

市町村別（7日間合計）では、多い順に那覇市1148人（先々週987人）、沖縄市526人（先々週536人）、うるま市408人（先々週435人）、浦添市382人（先々週285人）、宜野湾市313人（先々週246人）でした（図5）。

人口比（10万人あたり7日間合計）では、人口5千人以上の市町村で多い順に宮古島市429（先々週407）、金武町413（先々週518）、嘉手納町401（先々週349）、読谷村380（先々週293）、沖縄市360（先々週367）でした。

前週比が高かったのは、人口5千人以上の市町村で多い順に今帰仁村9.00（実数27人）、宜野座村2.29（実数16人）、恩納村2.06（実数35人）、八重瀬町1.98（実数81人）、糸満市1.54（実数146人）であり、都市部に遅れる形で地方でも新規陽性者数の急速な増加を認めています。

図5 市町村別にみる新規陽性者数（先週の上位10市町村）



渡航者関連

疫学調査で、渡航歴を認めた者は55人（1.2%）（先々週68人）でした。内訳は、県外からの渡航者48人（先々週60人）、県外へ渡航した県民7人（先々週8人）であり、渡航に関連した新規陽性者は減少しています。

入院患者数推移

入院患者数は、先週末（8月22日時点）で735人（8月15日時点633人）となり、過去最多を更新しています。酸素投与など中等症患者は596人（8月15日時点510人）、気管挿管など重症患者も25人（8月15日時点20人）に至り、中等症・重症患者が入院患者に占める割合は81.1%（先々週80.6%）と高くなっています（図6）。

図6 新規陽性者数および重症度別入院患者数



【今後の見通し】

県内の流行

沖縄県では、壮年層における感染拡大は鈍化しましたが、小児と高齢者において増加が続いています。家庭内や学校、施設など県内での流行を抑え込む具体的な対策が取られなければ、来月以降も高いレベルで流行が続くものと考えられます。

8月20日から22日にかけての旧盆にて、一部で親族間の交流が活発になっており、その影響が今週から来週にかけて出てくる可能性があります。今週の新規陽性者数は3,500-4,500人と推定され、とくに高齢者での増加が危惧されます。

来週以降は二学期が始まるため、学校内での感染によって加速する可能性もあります。小児を発端とした家庭内感染についても想定する必要があります。今後は、ワクチン接種が進んでいない若者たちに加えて、小児における感染をいかに抑止

できるかが重要になると考えられます。また、本土での流行が拡大していることから、渡航者対策の強化も求められます。

入院患者数

本来、入院すべきであろう患者数については、今週末までに900-1,100人と増加が見込まれます。ただし、病床確保が限界を迎えているため、実際に入院できるのは750人前後と予測され、150-350人程度が自宅や施設での療養を余儀なくされる可能性があります。気管挿管等を必要とする重症患者数も増加傾向が続くと予想され、今週末には35-45人に至ると推定します（図7）。

図7 今後1週間（8月23日-29日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（推定日）			入院患者数 [※]			重症患者数 [※]		
	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
北部	95.3	192.0	386.6	70.3	79.2	93.8	1.5	1.9	2.5
中部	865.1	1742.0	3508.0	284.1	367.5	503.5	13.0	16.4	21.9
那覇市	558.2	1124.0	2263.5	223.9	280.0	371.5	15.6	18.1	22.0
南部	539.8	1087.0	2188.9	181.3	228.6	305.8	5.0	6.9	10.0
宮古	106.8	215.0	433.0	37.3	46.4	61.3	0.6	0.9	1.3
八重山	66.0	133.0	267.8	33.2	38.8	47.9	0.4	0.6	0.8
合計	2231	4493	9048	830	1041	1384	36	45	59

※ 8月29日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会